再評価結果（平成 20 年度事業継続箇所）

担　当　課：都市･地域整備局街路課
担当課長名：松谷　春敏

事業名	大阪外環状線連続立体交差事業 （東大阪市域界～加美駅付近）	事業区分	街路	事業主体	大阪市
起終点	大阪外環状線：大阪市平野区加美北 5 丁目～平野区加美東 4 丁目 大阪外環状線連絡線：大阪市平野区加美北 5 丁目～平野区平野宮町 1 丁目			延長	**2.4km**

事業概要　本事業は、大阪外環状線鉄道整備事業と一体となり、市域界から加美駅付近及び分岐から関西線の区間について、鉄道を現在の地平から高架化することにより、７ヶ所の踏切を除却し、道路交通の円滑化、踏切事故の解消を図るとともに、鉄道により分断されている市街地の一体化を図るものである。

S58 年度事業化	**H10** 年度都市計画決定 （**H15** 年度変更）	**H13** 年度用地着手	**H14** 年度工事着手

全体事業費	**93** 億円	事業進捗率	**65%**	供用済延長	**0km**

踏切交通遮断量　２３，４００台･時／日（複線旅客化後の予測値：１６４，６００台･時／日）

費用対効果分析結果	B／C	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) 1.8 (残事業) 5.6	**38/119** 億円 事業費：**38/119** 億円 維持管理費：**0.1/0.1** 億円	**212/212** 億円 移動時間短縮便益：　**205/205** 億円 走行経費減少便益：　**5.5/5.5** 億円 交通事故減少便益：　**1.0/1.0** 億円	平成 **19** 年度

事業の効果等
・円滑なモビリティの確保（踏切除却によりバス利用者の利便性向上が期待される）
・個性ある地域の形成（鉄道により一体的発展が阻害されている地区を解消する）　　他７項目に該当

関係する地方公共団体等の意見
本事業区間の北側では大阪府の連続立体交差事業も一体的に事業実施されており早期の事業完成が望まれる。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等
現在の貨物列車の運行本数は 13 本/日であるが、複線旅客化後には列車通過本数は 142 本/日が増加すると見込まれている。

事業の進捗状況、残事業の内容等
事業進捗率：約 65%（事業費ベース）　用地買収進捗率：約 58%（面積ベース）
残事業：用地取得・旧線撤去工事・道路工事

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
当該地域は用地境界が不明確な箇所が多く、用地買収に先立つ境界確定等に時間を要していることや、地価下落局面の中、用地交渉がますます難航している。
H20 春の高架切替及び H21 年度の事業完了を目指す。

施設の構造や工法の変更等
２つの都市計画道路の交差部上において、エクストラドーズド橋(L=133m）を採用し、騒音、振動の低減や円滑な通行環境を確保している。また、周辺への圧迫感を抑え交差点を一跨ぎする姿は地域のランドマークとなっている。

対応方針　事業継続

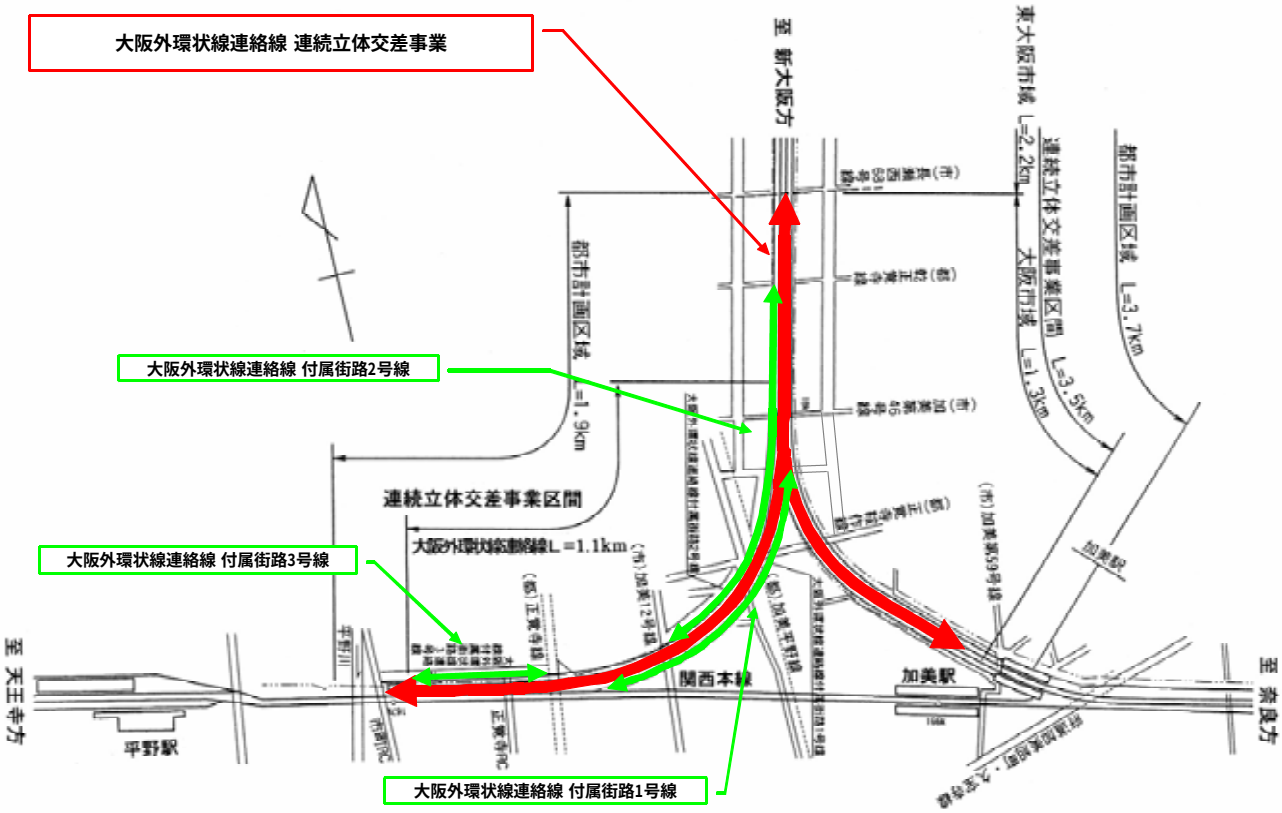
対応方針決定の理由
以上の状況を勘案すれば当初からの事業の必要性･重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

別紙のとおり

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

（別紙）


大阪外環状線連絡線 連続立体交差事業
大阪外環状線連絡線 付属街路2号線
大阪外環状線連絡線 付属街路3号線
大阪外環状線連絡線 付属街路1号線
至 新大阪方
至 天王寺方
至 奈良方
東大阪市域 L=2.2km
大阪市域 L=1.3km
連続立体交差事業区間 L=3.5km
都市計画区域 L=3.7km
都市計画区域 L=1.9km
連続立体交差事業区間
大阪外環状線連絡線L=1.1km
関西本線
加美駅
平野駅
正覚寺IC
市岡IC
平野川